

## 「御名が聖なるものとされますように」

### マタイによる福音書 6 章 9 節

先週から「主の祈り」についての御言葉を受けています。今朝は第一の祈り、「御名が崇められますように」という所をご一緒に聞いてまいりたいと思います。

この「御名が崇められますように」との祈りは、直訳すると「御名が聖なるものとされますように」となります。神さまご自身は聖なる方です。つまり、その聖なる方が、まことに聖なる方とされますようにと祈るということです。それは言い換えれば、神さまが神さまとされますようにということになります。神さまが神さまとされる、神さまが聖なる方とされるということです。しかし、逆に言うと、神さまが神さまとされていない、神さまが聖とされていない、私たちの間には、そういう現実があるということです。

ではなぜ、神さまの御名は、聖とされていないのでしょうか。その原因は、私たちによって汚されているからです。

一番は、神さまを神さまとしないことです。「聖なるものとする」というのは、他のものとは完全に区別するということです。ですから、神でないものと神さまを混同するという事は、聖とすることの逆であり、汚すこととなります。神さまを信じると言いながら、神さまに頼るよりもお金に頼ったり、現実的に目に見えて確かと思えるものを神さま以上に信頼して、神としてしまうというようなことを私たちはしてしまいます。

また、「神も仏もない」という言葉をときどき私たちは時に耳にします。その言葉を発している人は、自分が不幸になると神などいないと考えています。つまりその人にとって、神は「いつも自分に都合の良いことをしてくれる神」であり、そうでなければ神でないと考えているということです。自分に幸福だけをもたらしてくれる、自分を満たすもの、それが神であるとしているということは、神さまを便利な道具のようなものとしか見ていないということです。つまりそれも、神さまを神でないものと混同してしまっているということです。

あるいは、自分はこんな立派なことをやってきたとか、こんなにみんなから支持されているとか、こんなにいろんなことを知っている、なんてことを頼りにすることもあります。そういう時、神さまよりも、自分の名声や業績の方を神としてしまい、これも神さまの御名を汚してしまうことです。

神さまと神でないものを混同することは、「神などいない」と私たちが思うこと、また、思うだけでなく「神さまをいない」ものかのようにして生きること、これが一番に神さまの名を汚すことだと言えるでしょう。信仰者であるクリスチャンであっても、時に神さまがいないかのように考え、いないかのように生きてしまうことがあります。そのような私たちの故に、神さまの御名は汚されているのです。そのように私たちは絶えず、神さまの御名を汚してしまう存在であります。

では、神さまは、ご自分の御名が汚されていることに対して、どうされるのでしょうか。神さまは、ご自分が聖なるものであることを示すために何をされるのでしょうか。

考えられることのひとつには、神の名を汚す者たち、神に背く人々を裁く、という方法が考えられます。汚す者がいなくなれば、御名が聖なるものとされていくようになるかと思います。けれども、神さまのなさり方は違いました。そうではなく、神さまは、人を救うことによって、ご自分の名を回復させられたのです。人の罪を赦し、人が再出発できるようにすることによって、神さまが聖なる方であることを明らかにされたのです。

ですから、私たちが本当に祈ることは、「父なる神さま、私たちは、絶えずあなたの御名を汚したり、傷つけたりしてしまいます。ですからどうか、御名を汚してしまう私たちを、あなたの名が聖なるもののみまであることを讃えられるようにあなたによって変えてください。どうか、神さまだけを信じる者とさせてください。」こう祈ることです。そしてそれが「御名があがめられますように」という祈りに集約されているのではないかと思うのです。

イエスさまは、この祈りを通して、まず私たちに「神さまだけを神として生きなさい。時に神さま以外のものを頼ってしまったり、神さまを信じられなくなったりしてしまっても、神さまに造られたものとして、神さまに愛されているものとして生きなさい。そのように生きることを祈りなさい。」そう教えてくださっているのではないのでしょうか。